オームカーラ・プラダーナ

トゥカーラーム・マハーラージによるアバンガ

ラクシュミー・ジョイス・ウェルズによる歌

© Ⓟ 1995 SYDA Foundation®. 著作権所有。

複製・録音・配布を禁ず。

オームカーラ・プラダーナ

繰り返し

ॐकार प्रधान रूप गणेशाचे।
हे तिन्ही देवांचे जन्मस्थान॥

oṁkāra pradhāna rūpa gaṇeśātse |
he tinhī devātse janmasthāna ||

ガネーシャはオーム（AUM）の源である。

彼から三神が生まれた。

第 1 節

अकार तो ब्रह्मा उकार तो विष्णु।
मकार महेश जाणियेला॥

akāra to brahmā ukāra to viṣṇu |
makāra maheśa zāṇiyelā ||

この真理を理解しなさい。

A はブラフマー、U はヴィシュヌ、M はマヘーシャである。

第2節

ऐसे तिन्ही देव जेथोनि उत्पन्न।
तो हा गजानन मायबाप॥

aise tinhī deva jethoni utpanna |
to hā gajānana māyabāpa ||

このように、三神は生じた。

彼はガジャーナン、大いなる母であり父である。

第3節

तुका म्हणे ऐसी आहे वेदवाणी।
पहावी पुराणी व्यासाचिया॥

tukā mhaṇe aisī āhe veda vāṇī |
pahāvī purāṇī vyāsāciyā ||

トゥカーラームは言う、「このようにヴェーダは述べている。

これはヴィヤーサのプラーナで読むことができる」

トゥカーラーム・マハーラージのアバンガ「オームカーラ・プラダーナ」の解説

スワーミ・シャーンターナンダ

このアバンガ、「オームカーラ・プラダーナ」の題名の意味は、「オームの源」です。この献身的な歌は、インドの偉大な詩聖の一人である、トゥカーラーム・マハーラージによって作られました。

トゥカーラームは、マハーラーシュトラ州デーフ村の出身で、17 世紀に生きました。それはインドでは聖人たちの黄金時代でした。彼らの多くは、トゥカーラーム・マハーラージのような詩聖であり、彼らは、歴史家が呼ぶところのバクティ運動に属していました。

当時の慣習では、一般人（すなわち学者ではない人々）は、サンスクリット語を学ぶことが許されていませんでした――従って、彼らはその言語で書かれた教典を学ぶことができませんでした。しかしながら、詩聖たち――その一部は自らが靴直し職人、農民、陶器職人、庭師のような人たち――は教典に描写された教えや内なる精神的な境地の、直接的な体験や生きた知識を持っていました。この神聖な知識を誰もが手に入れられるようにするために、インドのその土地固有の言語や方言で、真心のこもった詩や献身的な歌、そして、精神的な生活に関する学術的な論文までも作りました。もはや、真理の本質について理解するために、偉大な学者である必要はありませんでした。

このアバンガ、「オームカーラ・プラダーナ」は、そのような献身的な歌の一つです。その繰り返し部分で、トゥカーラーム・マハーラージは、原初の音、オームの起点と源、すなわちプラダーナは、ガネーシュ神であると明言しています。

ヴェーダーンタ哲学によれば、オームは、至高なる意識の最初の顕現です。さらに、インドのすべての主要な哲学と同様に、ヴェーダーンタでは、至高なる意識には、二つの主な側面があると教えています。一つは、ニラーカーラで、超越的で形がないことです。もう一つはサカーラ、すなわち、広大な宇宙から地球まで、壮大な山々から小さな草花まで、海の生き物から人間までのあらゆるものといった、創造の形を持つことです。神聖さは、それ自身の形と形がないことの両方の側面で知られ、崇拝され得るのです。

ガネーシュ神はオームの源であると言うことによって、トゥカーラームは、ガネーシュ神が至高なる意識であると示唆しています。言い換えれば、聖人は探究者たちに、形なき者――ニラー

カーラであるもの――を呼び起こし、たたえ、崇拝するための手段として、ガネーシュの姿――サカーラであるもの――を与えているのです。

このアバンガで、トゥカーラームは、この愛される神の外観――常に少年の身体とゾウの頭で描かれる――から、時空を超えた永遠の原初の音へと、聞く者を連れていきます。トゥカーラームは、ガネーシュ神はオームカーラ、オームとして鳴り響く神聖な音節であると、言っています。

ガネーシュの丸い体と曲線を描くゾウの鼻の外観は、サンスクリット語に使われるデーヴァナーガリー文字が表すオーム の形、ॐを連想させます。これが、ガネーシュ神の名前の一つが、「オームを体現する」を意味するオームカーラ・スワルーパである理由です。[1]

ガネーシュ神の別の名前は、ガジャーナナ（ゾウの顔をした者） といい、トゥカーラームは彼のアバンガでこの名前を呼び起こしています。この名前の語源は、注目に値します。音節ガは、「音」を意味し、ジャは、「生まれる」を意味します。従って、ガジャーナナは、宇宙の根源の繊細な振動からすべてのものが生まれることを指しています。[2]

このようにして、トゥカーラームは、彼が「三神」と呼ぶものの起源として、ガネーシュ神を見ています。それらの三神――ブラフマー神、ヴィシュヌ神、そしてシヴァ神――は、至高なる意識が宇宙を顕現し、維持し、消滅させる力を表します。トゥカーラームは、これらの働きを、オームを構成する A、U、M の三つの音のそれぞれと結び付けています。

ブラフマー、すなわち創造者は、アクシャラ（不滅）とも呼ばれ、サンスクリット語のアルファベットの最初の文字である A によって表わされています。それは、ブラフマーが至高なる者から生じる最初の存在であると私たちに思い出させます。

ヴィシュヌ、すなわち維持者は、U によって表されています。この母音はサンスクリット語の半子音の V と音声的に対応し、ここではヴィシュヌに関連付けられています。

そして、マヘーシャ、またはシヴァ、すなわち消滅させる者は、M という文字によって表されています。[3]

インドの神々の名前は、多層的な意味をしばしば持っています。これはガネーシュという名前自体にも当てはまります。ガネーシュは、ガナ（集団）、そしてイーシャ、（神、または、支配者）という二つの言葉から派生しています。プラーナの物語では、ガネーシュはシヴァの大勢の従者たち、ガナの支配者として描かれています。より深い意味では、ガネーシュは生きているすべての存在の神、そして、さまざまなグループのシャクティ――オームから発し、まさにこの宇宙を創造したといわれる力――の支配者として認識されています。[4]

このことから、トゥカーラームがガネーシュを、存在するすべてのものの「大いなる母と父」と呼ぶ理由がわかります。

このアバンガの３番目で最後の詩節の中で、トゥカーラーム・マハーラージは言っています。「このようにヴェーダは述べている。これはヴィヤーサのプラーナで読むことができる」。詩聖はこのアバンガで、自分は原初の音の知識と経験を垣間見せている、そしてガネーシュ神の崇拝を通してそれに近づく方法を示している、しかしそれについては、さらに多くの語られるべきことがあると言っています。事実、この主題については、さらに本当に多くのことが語られており、何百巻ものプラーナで、詳細に取り上げられています。それこそが、オームの、そしてガネーシュ神が表しているものの、重要性と壮大さなのです。

© 2021 SYDA Foundation®.著作権所有。
このアバンガの録音はシッダ・ヨーガ・ブックストアで入手できます。

[1] John A. Grimes, *Gaṇapati: Song of the Self* (Albany, NY: SUNY Press, 1995), pp. 77–78.
[2] Grimes, *Gaṇapati*, pp. 45–46.
[3] The symbolic interpretation of *AUM* was provided through personal correspondence with Dr. Borayin Larios, University of Heidelberg, Germany, August 2018.
[4] Grimes, *Gaṇapati,* pp. 41–42; and Larios correspondence.